

# 福島第一原子力発電所

## 陸側遮水壁ブライントank水位低下の状況について

< 参 考 資 料 >  
2 0 2 0 年 1 月 9 日  
東京電力ホールディングス株式会社  
福島第一廃炉推進カンパニー

- 2019年12月26日に確認した陸側遮水壁のブライン（冷媒）タンク2基（2A/2B）におけるブラインの水位低下については、気温変動による揺らぎも考慮して監視を継続していたところ、2020年1月8日の時点で若干の低下傾向（前日から-4cm程度）が見られたことを踏まえ、同日、以下について確認を実施しました。
  - ・ これまでに漏えいが確認された凍結管（No.1890-6T）上部の継手部分において、漏えいは継続していないこと
  - ・ 配管部分（地上部）について、漏えい等、問題がある箇所はないこと
- また、これまでに漏えいが確認された箇所の近傍からの漏えい可能性を考慮し、1月8日、この周辺エリアであるヘッダー管6BLK(ブロック)-H1のバルブを閉止しました。気温変動による揺らぎも考えられ、ブライン水位の変動を継続的に監視していく必要があると考えておりますが、1月9日現在、水位変動は落ち着いた状態になっています。
- 1月9日時点で、ヘッダー管6BLK-H1における配管ピット内の氷の融氷は、まだ途中だが、融氷した範囲では、問題となる箇所は確認されておりません。今後、この場所にある配管の保温材を剥がし、改めて調査する予定です。漏えいが見つかった場合、当該凍結管のバルブを閉止し隔離します。目視にて漏えい箇所の特定ができない場合は、バルブ操作により6BLK-H1内にある凍結管の一部にブラインを流し、ブライン水位の変動を見ていくことにより、問題箇所を特定していく予定です。
- また、今後、ブライン水位低下傾向が継続するような場合は、いったん南西エリアの凍結プラントを停止し地中温度の監視を継続します。その後ブラインを補充して凍結プラントを再起動し、調査を再開します。凍結プラント停止中において地中温度が上昇した場合は再度運転し、凍結機能を維持します。

仮に凍結プラントの運転を停止した場合においても、凍土壁が溶け始めるまでには数ヶ月程度の期間があることから直ちに陸側遮水壁に影響が出るものではないと評価しております。

# ヘッダー管6BLK(ブロック)-H1 バルブ閉止箇所

